

富田才治（とみたさいじ）（1/2）

～虹の松原一揆の指導者～

江戸時代のことです。明和8年（1771年）7月20日の夜明け前、虹の松原の真ん中付近に、唐津藩内の農民・漁師ら約2万5千人が声をひそめて集まっていました。歴史に残る「虹の松原一揆」の始まりです。

彼らはこの一揆で何をしようというのでしょうか。大あらましにいうと、藩の役人に「減税」を訴えたかったです。

この一揆の指導者が富田才治なのです。才治の祖先は出雲の国（島根県東部）の富田城主でしたが、浜玉町の平原中川に移住し、代々平原村の大庄屋を務めてきました。

才治は享保9年（1724年）、父定該（理太夫）の三男として生まれました。姉梅子が相知の大庄屋向奎弥に嫁いだこともあり、相知の向復斎とも親しく行き来をしていました。

また、父が開いた平原の塾の疆亭（きょうてい）や習化堂に、相知から向復斎に出向いてもらい、才治の子や甥たちへの勉強を頼んでいます。

才治は、ある時から相知やほかの親しい人々との縁をぷつつり切りました。それから、一揆への下準備が着々と進められたようです。才治はどうして幕府が禁じていた一揆へと走ったのでしょうか。

宝暦13年（1763年）、水野忠任は唐津藩主になりましたが、唐津に来てみると、それまでの唐津藩領のうち、福岡県の鹿家地区と現浜玉町の大部分の区域が幕府領になって、1万石も減っていたのです。大勢の武士とその家族が移動するだけでも大変な費用がかかりました。

そこで、水野侯は百姓たちに今までにない厳しい年貢を取り立てたのです。例えば今までは税がかからなかった、川べりのすぐ水に浸かって荒れる田んぼや、農民がわずかに開いてかくしていた田にも税をかけました。漁師にも「運上」という税金を余計にかけました。また、和紙の原料となる楮（こうぞ）を、忙しい農漁民に植えさせて、その楮をよそより安く買い上げました。

農漁民はすっかり疲れていました。生きる希望を失っています。「これはどうかしなければ」と立ち上がったのが才治です。才治に協力した人たちに半田の麻生又兵衛や市丸藤兵衛、それに常楽寺の智月和尚がいました。

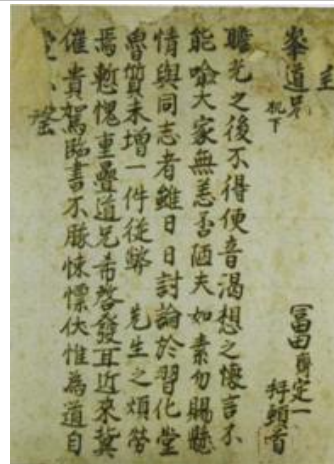
彼らは十分に計画をねり、約2万5千人の一揆を成功させたのです。村代表の大庄屋たちが藩役人と話し合い、いい返事を持って帰って来てから、一揆は静かに解散しました。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 浜玉

◎地図・写真・統計資料など



峯先生に宛てた富田才治の書



才治の辞世の句の碑

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

富田才治（とみたさいじ）（2/2）

～虹の松原一揆の指導者～

～1/2からつづく～

藩は自首して出た4人を、翌明和9年3月11日、処刑場で打ち首にしました。

才治は処刑場に引かれていく前に、西寺町の自南寺で妻子に別れを告げています。今自南寺には才治を祭るお堂と才治の句碑が山門のそばに建てられています。

たねうえて 土にもどるや 土くじり

才治の首はさらされましたが、一夜のうちにだれかに盗まれて、浜玉町南山の正念寺の「当寺裏五丁余口方 小川の傍に」葬られています。これは「富田家系図」に書かれているものですが、口のところは、東西南北いずれかがわからぬように、わざと空けてあります。

平原に才治の墓がありますが、墓石には何も書いてはありません。才治の墓と伝えられるのみです。また、墓地への登り口には「シャーリさま」とみんなが言っている才治をまつた祠があり、毎年3月11日の命日には、村人が今も絶やすことなく、お祭りをしています。また、才治の辞世の歌が残されています。

人のため 我は命を 中川の
浮世の為の 貝杓子かな

この歌は「私は、中川（平原川）に浮き沈みするような苦しい暮らしをしている村人を、川からすくいあげる貝杓子になったのですよ」という意味です。

また、明治33年（1900年）村人は、中川谷の生家付近に「富田才治顕頌碑」を建てました。これは才治への感謝の心と、のちの世の人たちに才治のことを知ってほしいとの願いからです。

分野 人物

地域 浜玉

◎地図・写真・統計資料など



才治の墓



才治の記念碑

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html